

## 琵琶湖沿岸帯調査におけるシジミ資源の長期変遷

井戸本純一・岡本晴夫・孝橋賢一・森田 尚

## 1. 目的

1969年、1995年および2002～2003年に準じた調査を実施して琵琶湖沿岸帯全域の貝類生息状況を把握するとともに、漁場の内外を含むシジミ類資源の長期的変遷を概観する。

## 2. 方法

調査地点は、過去の調査に準じた琵琶湖全域の水深7m以浅における301地点に加え、あらたに水深10mのシジミ漁場内に設けた10地点を対象とした(前頁参照)。

貝類は、30cm方形枠を用いて1地点につき5回(0.45m<sup>2</sup>)、底質(表層約10cm)とともに潜水士が採掘(掘れない場合は表面の貝のみ採集)し、19mm、4mmおよび2mmの標準篩上に残った個体を計測した。なお、各篩上の礫も重量測定のためそれぞれ乾燥保存した。

各地点のシジミ類採集重量を1m<sup>2</sup>あたりの重量に換算して過去の調査報告と比較した。

## 3. 結果

1m<sup>2</sup>あたりのシジミ類の採集重量(g/m<sup>2</sup>)を地域別水深別に平均し、過去の「琵琶湖沿岸帯調査」ならびにその基礎となった1953年の「琵琶湖水位低下対策(水産生物)調査」\*)の結果とともに図1に示した。7m以浅の各水深を地域別にさらに平均して前回と今回を比較すると(単位省略)、湖西は2.8→3.8、湖北は0.7→0.9とやや増えたのに対し、湖東は8.8→4.5、湖南は10.1→7.2と減少した。さらにさかのぼると、過去最大は1953年の湖東の134.3であったが、1969年には48.1に激減した。1995年はセタシジミ以外が多い湖南を除くと湖東の8.3が最大で、その後はいずれの地域も横ばい状態に低迷している。

調査地点の多くは通常シジミ漁場ではなく、さらに近年7m以浅の操業は極めて限定的であることから、浅水域におけるセタシジミの減少は環境要因が主因である可能性が高い。



図1 年代別各調査における琵琶湖沿岸帯1m<sup>2</sup>あたりのシジミ類採集重量の推移。

\*) 昭和28年度総合開発調査 琵琶湖水位低下対策(水産生物)調査報告書、滋賀県水産試験場